環境省 「環境デューディリジェンス (DD) 普及セミナー」

パネルディスカッション: 日本企業における環境DD実践のポイント

積水ハウスの環境デューディリジェンスと ESG経営のポイント



本社 梅田スカイビル と希望の壁

積水八ウス株式会社 ESG経営推進本部 環境推進部 佐々木





当社住宅の木材調達使用量





コンクリート類 20.5%

弊社住宅の資源使用量

総量 約42t

29.6%

(約150㎡の標準 的な当社軽量鉄骨 造住宅、建物のみ)





取引メーカー約3,000社の協力を得て1棟あたり約5万点以上の部材で構成されています。

ガイドライン=デュー・ディリジェンス(DD)



DD…事業の将来性を支える持続可能な木材を確保するためのプロセス

情報収集



リスク評価



リスク緩和措置

1 初期リスク評価

樹種リスク

- ▶ワシントン条約
- ➤IUCNレッドリスト 他
- 伐採国・地域リスク
- ▶違法伐採度合
- ▶腐敗認知指数 他

② 詳細リスク評価

初期評価で高リスクの蓋然性が高い場合には、より 川上にアプローチし、現地の森林管理状況、伐採状 況について情報収集を行い、運用面での違法リスク を判断

▶NGO情報、書類確認、現地訪問 他

サステナブル・ビジョン (2005年)



「持続可能性を経営の基軸に据える」…SDGsと同じ方向性

「4つの価値と13の指針」とSDGs (事業を通じた直接的・間接的な寄与項目)



当社の持続可能な「木材調達ガイドライン」



	積水八ウスの「木材調達ガイドライン」10の指針	対応するSDGsの 目標とターゲット例
1	違法伐採の可能性が低い地域から産出された木材	16 TREDRE 15 TOGSTON 15 TOGSTON 16 TOGSTON 1
2	貴重な生態系が形成されている地域以外から産出された木材	15 Bodines
3	地域の生態系を大きく破壊する、天然林の大伐採がおこなわれている 地域以外から産出された木材	15 Wodres
4	絶滅が危惧されている樹種以外の木材	15 #85***
5	生産・加工・輸送工程におけるCO2排出削減に配慮した木材	13 RERECTION AND COMPANY OF THE COMP
6	森林伐採に関する地域住民との対立や不当な労働慣行を排除し、地域社会の安定に寄与する木材	1 ATT B ANALY
7	森林の回復速度を超えない計画的な伐採がおこなわれている地域から 産出された木材	2 mms 12 oceans ((((
8	計画的な森林経営に取り組み生態系保全に寄与する国産木材	12 つくち あだ
9	森林生態系の保全や創出につながるような方法により植林された木材	15 Wodres
10	資源循環に貢献する木質建材	12 ocean

評価の一例: (絶滅危惧種)



調達指針④ 絶滅が危惧されている樹種以外の木材

得点	IUCN Red Databook 1994 Categories & Criteria (Ver2.3)	IUCN Red Databook Category(日本版)	樹種 (抜粋)
5点	LR/LCLow Risk/ Least Concern	カテゴリー外	ウエスタンレッドシダー、 ダグラスファーなど
4点	LR/CD&NTLow Risk/ Conservation Dependent, Near Threat	準絶滅危惧	ヒノキ、スギ、センペル セコイアなど
3点	VUVulnerable	絶滅危惧やや高い	セプター、チーク、ウリン
2点	ENEndangered	絶滅危惧高い	ホワイトメランチなど
1点	CRCritically Endangered	絶滅危惧非常に高い	レッドラワン、イエローラ ワン、カポールなど

※ 認証材であれば+2点 (=認証制度は加点要素)

「認証」に留まらず、木材を総合評価し改善



•

得点	違法伐採の可能性が高いと考えられる木材のその国の木材総輸出量に占める割合	地 域
5点	10%未満	フィンランド、ニュージーランドなど
4点	10%以上	ラトビア、中国、ベトナム、日本など
3点	30%以上	ロシア欧州部、韓国、台湾、フィリピン、 ベトナム、ラオスなど
2点	50%以上	ロシア極東、エストニア、カメルーン、 赤道ギニア、ガーナ、など
1点	70%以上	ガボン、リベリア、インドネシア、カンボ ジア、ブラジル・アマゾン、 など

得点	IUCN Red Databook 1994 Categories & Criteria (Ver2.3)	IUCN Red Databook Category(日本版)	樹種 (抜粋)
5点	LR/LCLow Risk/ Least Concern	カテゴリー外	ウエスタンレッドシダー、 ダグラスファーなど
4点	LR/CD&NTLow Risk/ nservation Dependent, Near Threat	準絶滅危惧	ヒノキ、スギ、センペル セコイアなど
3点	VUVulnerable	絶滅危惧やや高い	セプター、チーク、ウリ ン
2点	ENEndangered	絶滅危惧高い	ホワイトメランチなど
1点	CRCritically Endangered	絶滅危惧非常に高 い ●	レッドラワン、イエロー ラワン、カポールなど

10の指針ごとに分析し、合計して、木材を評価

合計点(最大43点)	調達ランク
34点以上	S
26点以上、34点未満	Α
17点以上、26点未満	В
調達指針①④が評価できない、もしくは17点未満	С

→ 可視化し、マネジメント

ガイドライン 運用の成果



調達ランク

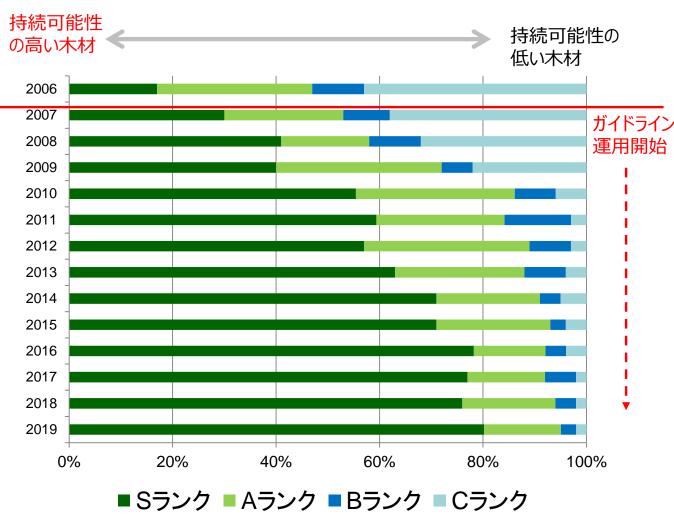
各調達指針の合計点で評価対象の 木材調達レベルを高いものから順 にS、A、B、Cの四つに分類。10の 指針の中で特に重視している❶と❹ に関しては、ボーダーラインを設定。

合計点(最大43点)	調達ランク
34点以上	S
26点以上、34点未满	Α
17点以上、26点未满	В
17点未満	C

伐採地域別割合(2019)



※1 東アジア(日本を除く) ※2 北洋: ロシアなど ※3 南洋: インドネシア、マレーシアなど ※4 アフリカなど (本年度から国産材と木廃材などを原料とする再生材も独立して開示しました)



(注) Cランクの場合も、最低限の合法性はクリアしています。

DDの重要要素…ソフトローのアンテナの方向

最先端の情報はどこにあるか?

…一例)パームヤシvs.ゴムvs.木材 の構図も見えてくる



周辺は、大半がパームヤシの植林帯。 理由としては植林後5年目位から複数 年にわたってヤシの実が採取できること があげられる(パームヤシは石鹸などの 原材料として使用される)。

二次植生地を皆伐して行われるパームヤシのプランテーションの急激な増加は、単一植生による生態系劣化が激しく、問題視されている。



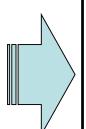
自発的に「持続可能な調達ルール作り」



RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)

…消費財大手のユニリーバとWWFが、関連企業を巻き込んで設立し(2004年)、パーム油生産の国際基準を作った。その基準が後に認証制度の基準となり世界標準になった。





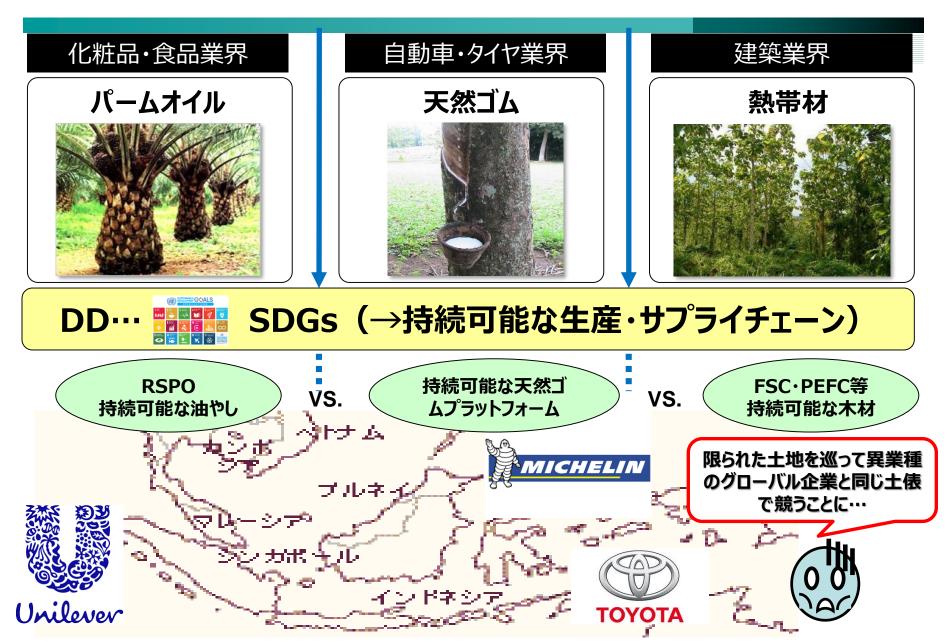


持続可能な 天然ゴム生産の 新ルール作り





共通言語SDGsの「怖さ」…サプライチェーンは業界の壁を超える



専門家による評価

「サステナビリティレポート2020」より

「フェアウッド」による持続可能な木材調達について

世界で広がる「デューデリジェンス」と「フェアウッド調達」

2008年、違法木材を市場から無くすための法律が米国に登場した。その後 EU なども追随し、過去10年で木材のサプライチェーン管理の考えは急速に進んでいる。共通するのが「デューデリジェンス(以下 DD)」。違法リスクを確認するための①情報収集、②リスク評価、③リスク緩和というプロセスで、現在、ESGリスクも含めた木材 DD を実施する企業が増えている。

約15年にわたって動向を見てきた専門家の視点から見ると、積水ハウスの「フェアウッド調達」の一番の特徴は、DDを世界や未来の地球への投資と位置付けている点である。大手メーカーとしての責任とサプライヤーに対する影響力を認識し、自社に関連性の高いESGリスクを積極的に分析し対応していくことで、全体としての持続可能な社会づくりを目指していることがわかる。フェアウッド調達の10の指標からは「合法性」の遵守は当然、国内外の生態系保全やCO2削減のほか、地域住民の社会福祉にも配慮し、数値化された調達実績も積んできている。

DDの分野では認証材割合を増やすことがよく目標に掲げられる。森林の農地転用が世界中で急速に進む中、認証制度自体は森林減少を担保するための可視化されたツール

だからだ。ただ、積水ハウスの場合は認証材活用を最終目標にせず、DDを通じた潜在リスクの洗い出しと、未来の地球への投資という視点から調達が行われている。例えば、国産材のブランド化などの国内生産者支援、小規模で認証取得のハードルが高いアグロフォレストリーなどを行うコミュニティ林材の評価がその例だ。DDは本来、画一的なものではない。最適化してオリジナルのものをつくることが各企業にとって一番効率が良く、同時に他との差別化の要素となり得る一つの好例だといえるだろう。

気候や気温を調整してくれていた生態系豊かな天然林や 熱帯林は急速に消失しているが、日本の木材業界や消費者 には危機感がまだ十分にないようだ。今後は、自社内での取 り組み深化にとどまらず、消費者やサプライヤーなどを介して、

建築産業や周辺産業に対し、地球の未 来への投資という考えをさらに広めら れることを期待する。

> 英国王立国際問題研究所 (チャタム・ハウス) 森林問題コンサルタント

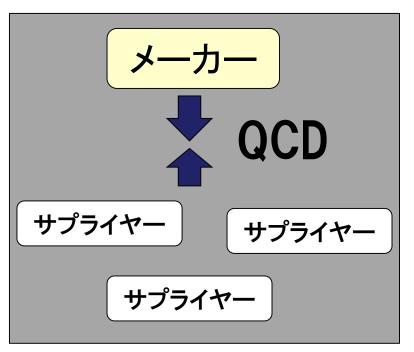




サプライヤーとの関係…「競争」から「協創」へ

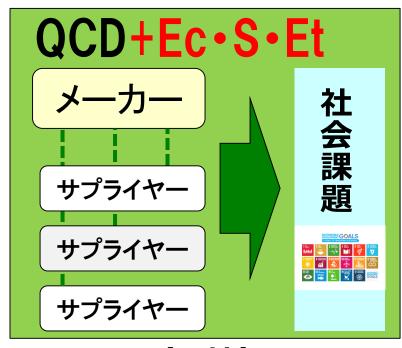


折衝・対立 軸から



Quality(品質) Cost(価格) Delivery(納期)

コンサル的役割へ



Ecology(環境) Social(社会) Ethical(倫理)

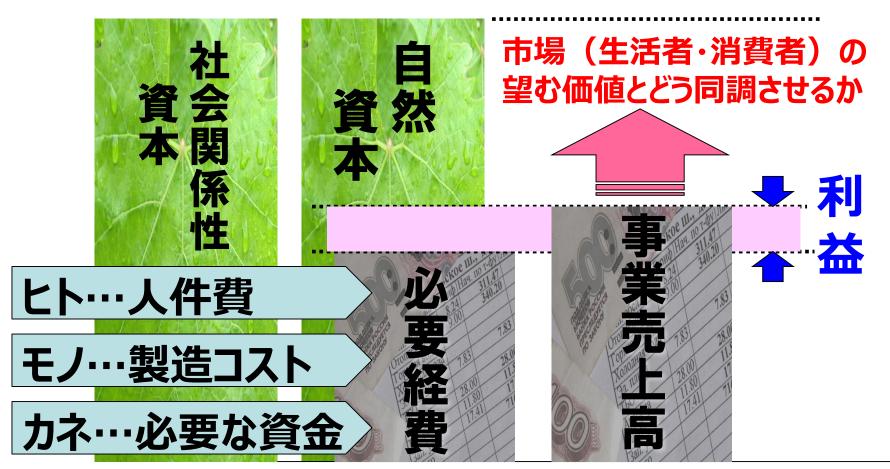
SDGs:「共通言語」として、異なるステークホルダーの協働・連携や組織内での

調整に活用できる。

つまり、「自然資本」「社会関係性資本」



「自然を使い続けること」や「社会との関わり」を 経営にどう組み込むか



経済的損得以外の「価値」をどれだけ発見できるか

価値…可視化された個性を選択できること (仮説)



例:当社国産材販売のコミュニケーション戦略の











·· 材に銘木の焼印を刻印したり、建築期間中に仮囲い銘木利用である旨のパネルやノボリを立ててお客様の地域へ の愛着に働きかけたりといった持続可能な木材のプレミアム感を高めるためのコミュニケーション提案方法も評価頂い て、第一回の「ウッドデザイン賞」で部門別の最高位に該当する「<mark>林野庁長官賞」</mark>の取得をさせて頂けました。

大企業の責任は、単にフラグシップモデルを作るだけでなく、ボリューム・規模を拡大して市場への道をつけることだと考えておりますが、「木材利用ポイント」の制度終了後も、国産材の銘木を柱に利用した木質系住宅は引き続き、月に5,60棟ペースの販売にまで成長し、<mark>累積出荷棟数も4500棟を(2019)越える商品へと飛躍</mark>しました。

地産地消の推進(産地の銘木18ブランド)

■地産地消の推進

各産地の銘木ブランドをご用意しました。 『檜で我が家を建てたい一』 そんな思いにお応えします。







一本一本の柱に産地押印



「持続可能性ツールとしてのDD」の実践的意義。

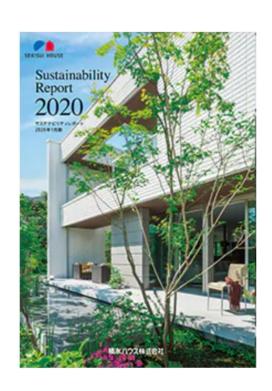




- ◆ソフトローとして、実施の「目的適合性」を明確にすること
 - 1. ステークホルダー(サプライヤー)との関係強化
 - …競争力の源泉は優良な原材料にある。サプライヤーという 社会関係性資本の強化は、企業の無形資産の中核
 - 2. 商品・サービスの「個性化」で顧客価値と一致させる …個性化に活かせば、損得と同等のブランドカの強化も
 - 3. ESG投資の拡大(上場企業)
 - …持続可能性保全のための企業活動(=自社の長期持続 的成長)を伝えることで、機関投資家からの投資を確保し、 これによって、財政的基盤(株主資本)を強固にできる (中堅・非上場でも、優良な人材基盤強化や納入機会 の拡大に直結する「共通用語」として機能)



ご清晰ありがとうございました



積水ハウス株式会社 「サステナビリティ・レポート2020」

https://www.sekisuihouse.co.jp/sustainable/index.html
→ レポートは、「エコほっとライン」 でご請求ください。

参考:環境コミュニケーション大賞

(環境省・一般財団法人地球・人間環境フォーラム 共催)

2016「持続可能性報告 大賞 (環境大臣賞)」

2017「持続可能性報告 大賞 (環境大臣賞)」

2018「環境報告優秀賞」

2019 環境報告部門 「殿堂入り」企業に選定

積水八ウス㈱ ESG経営推進本部 環境推進部 佐々木 正顕 m-sasaki@ga.sekisuihouse.co.jp